

令和3年度 学校評価自己評価表 安芸太田町立上殿小学校

3学期

教育目標		ふるさとを大切に、自ら学び、将来をたくましく生きぬく児童の育成						
学校経営の重点		○主体的な学びの育成 ○基礎基本の定着・活用 ○体験活動を通じた豊かな感性の育成 ○基本的生活習慣の確立						
中期経営目標		短期経営目標	担当	目標達成のための方策	評価指標	資料	3学期達成状況	3学期 最終コメント
確かな学力の定着	主体的で深い学びのできる児童を育成する。	学びに向かう力を高め、深い学びを育成する。	教務	深い学びのある単元づくり・授業づくりを通して、課題を発見する力、主体的に学ぶ姿勢、協同する力、課題解決をするための整理分析をする力を育てる。	児童アンケート肯定的回答80%以上。各単元で設定したルーブリック評価規準、B規準以上の児童の割合90%以上。	児童アンケートノート ワークシート	3	児童アンケート①「学習のふりかえりをするときには、『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えています。」の肯定的回答は、74%であった。②「『総合的な学習の時間、生活科』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」の肯定的回答は、65%であった。各単元で設定したルーブリック評価規準、B規準以上の児童の割合は100%だった。②については2学期に1学期末と比較して、20ポイント以上下がったが、授業改善により、3学期は上がった。特に今年度はICTの活用により、児童が情報整理し、まとめる力が伸び、達成感を持つことができた。
		基礎基本の定着を図る。		教科等の特質に応じた見方、考え方を習得する授業改善を進める。常タイムや補充学習・家庭学習における基礎基本の力をつける取組を継続し、学力の向上を図る。	国語・算数の学期末・単元末テストの合計が期待平均以上の児童の割合70%以上。	単元末テスト 学期末テスト	3	期待平均点以上の児童の割合は、国語87%、算数65%である。漢字検定の取組によって、漢字や言葉の力が定着した。標準学力テストに向けた復習も行ったことで、読解力も向上した。算数は一年間で学習した既習事項が定着しきれていないので、一人一人の弱点を復習させていく。
豊かな心の育成	自分も人も大切にできる児童を育成する。	自己指導力を高める。	生活安全	・ルールや決め事の内容及びその意味を児童に周知する。 ・児童会で決めた月目標達成に向けて取り組むことを通して、より良い生活を送ろうとする意識を高める。	児童会月目標を意識して生活する児童の割合を80%以上にする。	児童会月目標の反省結果	2	児童会月目標について「守れた」と自己評価をした児童は、12月「物を大切に使う」87%、1月「廊下や階段は、右側を静かに歩く」35%、2月「放送や人の話を最後まで聞く」65%だった。児童の生活の様子から課題を見出し、1月、2月の目標を設定した。しかし、感染症予防のため集会活動を見送るなどしたこともあり、全校に働きかけることが十分にできなかった。
		自己肯定感を高める。		・児童理解の職員研修を行い、共通認識を持って児童へ関わる。 ・人との関わりの中で認め合う取組を仕組む。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合を70%以上にする。	児童アンケート	3	児童アンケートについて、1、2、3学期の肯定的回答は、「自分のいいところや得意なことを3つ言える。」71%、58%、70%、「自分のことが好きです。」75%、50%、70%で、両方もV字回復した。児童のがんばりやよさを認め合う取組を学校生活の様々なところで大切にしてきた成果と考える。
健やかな身体の育成	たくましい身体を持った児童を育成する。	基本的生活習慣を確立する。	生活安全	・ノーメディアを中心に取り組み、規則正しい生活リズムの確立を目指す。	・学期に1回ノーメディアの取組を行い、自分が立てた目標を達成できた児童の割合を80%以上にする。	がんばりカード	4	目標の達成率は1学期が57%、2学期は72%、3学期は83%であった。ポイント制にしたり、個々に応じたコメントを返したり工夫することで多くの児童が意欲的に取り組んでいた。また、保護者も子供とのふれあいの時間が増えたなど肯定的意見が多かった。しかし、高学年になるほどメディアの利用が増える、取り組むことが自体が難しい児童が何名かいるなど、年齢や個々の置かれている状況や心情なども踏まえた上でアプローチしていく必要がある。
		体力の向上を図る。		・めあてを持たせて運動に取り組ませる。 ・業間運動の充実や体育科授業改善を図る。	・1学期は、一輪車カードから各自1つの種目を選び、その種目の達成率を80%以上にする。 ・2、3学期は、新体力テストで一昨年度の県平均を下回った種目(2種目)において、前回記録を上回った児童の割合を80%以上にする。	一輪車カード 新体力テスト	2	3学期は、短縄跳びの技について目標を設定し、意欲をもって取り組んだ。しかし、積雪で校庭が使えなかったり、感染症予防のために講堂の使用を制限したりしたことなどで、休憩時間などに積極的に運動遊びができない状況があった。反復横跳びについて、1学期の新体力テストで一昨年度の県平均を上回った児童が56%だったので、3学期にも取り組み、1学期より記録を上回った児童が74%になった。一昨年度の県平均を上回った児童の割合は78%となった。
開かれた学校づくり	信頼される学校づくりを推進する。	情報発信を積極的に行い、保護者・地域の理解を深める。	総務	・学校からの便りやHPの更新を通して、情報提供を行う。 ・来校の機会を通して、互いの理解を深める。	学期ごとに行う保護者アンケートにおいて、肯定的な評価を90%以上にする。	保護者アンケート	3	保護者アンケートで「学校からの便りやホームページ、PTA集会等を通して学校の様子がよくわかる。」という項目は94%だった。学校での取組の様子を、学校便りやHP、学級通信を通して情報発信し、理解を得ることができたと思う。
		働き方改革を推進する。		・優先順位をつけて効率的に業務を進めることの習慣化を図る。 ・日々の業務や学校行事等の持ち方を見直し、児童と向き合う時間を確保する。	指針に沿って、次の数値以下にする。 勤務時間外在校時間 月45時間	勤務時間外在校時間記録表	3	勤務時間外在校時間 月45時間以下の達成状況は、4月から2月においては82.1%である。年度当初は、勤務時間外在校時間が長くなる傾向が見られたが、7月以降は100%の達成率である。月45時間以下を目安に優先順位をつけながら業務を進める意識を持ち、効率的に取り組むようになってきた。

評価基準

4:100%達成 3:80%おおむね達成 2:60%以上達成 1:60%未満